

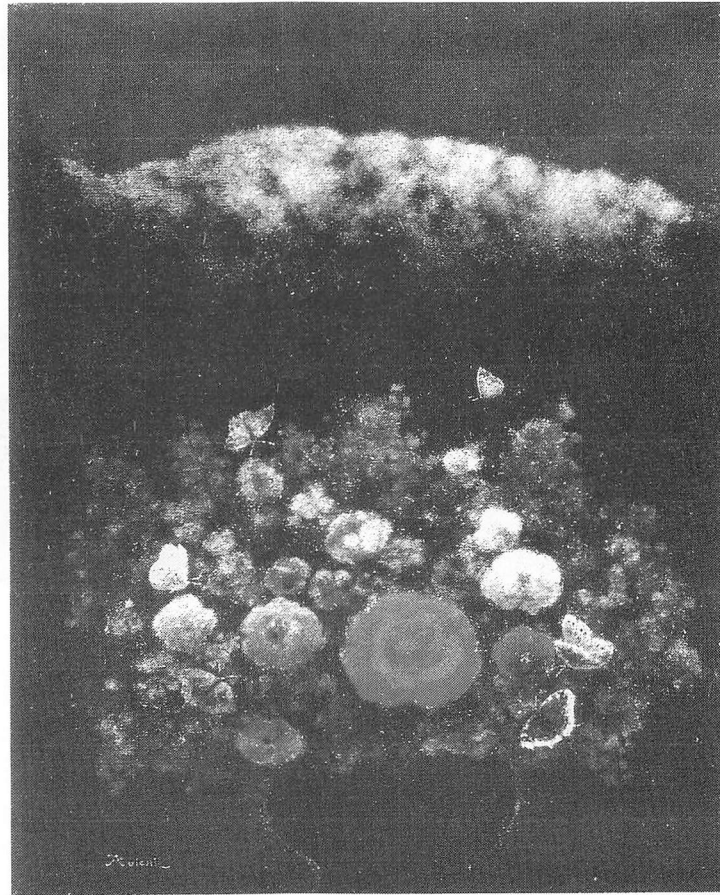
SUPPORTERS CLUB NEWS

友

友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒 039-2501
青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94
七戸町立鷹山宇一記念美術館内
鷹山宇一記念美術館友の会
TEL.0176-62-5858 FAX.0176-62-5860
e-mail.takayama-museum@town.shichinohe.aomori.jp



▲鷹山宇一『早春賦』1990年 60.8×50.0cm 【1990年春季二科展出品】

……ミュージアムコレクションから①
鷹山宇一の『早春賦』……

雪国に暮らす者にとって春は大変に待ち遠しい。ようやく3月に入ると日差しも柔らかくに、暖かさを増していく中で氷も徐々に解けて、いよいよ春がやって来たか、と頬を弛ませると意地悪くもまた雪の日が続いたりする。手が届きそうで届かない「春」をじれったく思う。

記念すべき第一回目に取り上げたこの作品は、花瓶に活けられた花々を前景に、背景には様々な風景を配する鷹山宇一の代名詞的な構図を見ることが出来る。画面は一見して至極シンプルだが、必要最小限のモチーフと空間は絶妙に均衡を保ち、かえって見る者の想像力をかきたて奥が深い。70余年の長きにわたり絵の道一筋に生きた画家の力量を感じさせる作品である。

花たちは彩りも鮮やかに、その彼方に青みがかって見えるのは残雪の山であろうか、現実にはありえない非日常なこの組み合わせを深い闇が静かに結びつけ、私たちは思い思いに物語を創り出す。

今、七戸の地から八甲田の山々を望む時、この作品がまさに春の訪れを待ちわびる雪国の人々の心を描いているように思えてならない。それは、鷹山自身の心でもあり、ふるさとの思い出と共に画家の胸に刻み込まれた原風景なのかもしれない。

鷹山の生まれ育った地に建つこの美術館で、開館より10年来、『早春賦』は当館を代表する作品としていつも静かに皆さんとの出会いを待っている。

（宇一君 大池 里希子）

■二科会の重鎮相次いで逝く■ 吉井淳二先生、淀井敏夫先生を悼んで

鷹山 ひばり

吉井淳二先生のこと

昭和五十三年四月、熊本二科展初日に東郷青児先生が急逝されました。突然の出来事に急遽善後策を検討するため私の家に理事の先生方がお集まりになりました。その席上吉井淳二先生が会長代理に選ばれて二科会事務所の独立などが決まり、事務局電話番号に私が仰せつかりました。

翌日奥様とお二人で再び吉井先生がお見えになり、父の前で姿勢を正された先生が、私を二科会がお借りしたいと頭を下げられました。そして、今度は私に向かって「どうか宜しくお願いをしたい」と深く一礼をされました。学生時代「色彩学」等を学びキャンパスでもよくお会いしていた先生でしたが、芸術院会員で高名な吉井淳二先生から人間としての基本を教えて戴いた瞬間でした。二科会在職中は辛い事、悲しいことが多い二十年の歲月でしたが、それに堪えるだけの価値を一番最初に先生から頂戴をいたし、働く原点を得られた私は幸せでございました。十年前の「地下鉄サリン事件」の朝、小原初代館長、浜中常務理事、戸館課長と共に「春季二科展」開催のご挨拶に伺うと大変お喜びになり、初日のテープカットにご出席して下

▲1995年鷹山宇一記念美術館で初めて開催した「春季二科展」オープニング・レセプションにて、二科会を代表して挨拶をする吉井淳二先生。



さいました。七戸町がお迎えした最初の文化勲章受章者は吉井淳二先生でした。このことは美術館は無論のこと、私共関係者にとりまして今でも大きな誇りであります。

思い出が走馬燈の如く駆け巡り、私も時の流れに感懐する歳となりました。

淀井敏夫先生のこと

「普通の仕事に就けないから絵描きになつたのだ」と父はよく言っていました。全くと同時に二科理事会は可笑しいくらいの会合でした。

横長のテーブルの中央に吉井理事長が座り、その真向かいに淀井先生が着かれるのが常でした。長く東京芸大教授でいらした淀井先生は2時間くらいの会議は当たり前のご意見を出されていきましたが、なかなか理

事会で決定になりません。最初の15分はまともに議題を検討をしていますが、少々遅れてみえる現理事長の鶴岡義雄先生が、織田廣喜先生の横に着かれると段々本題から外れていきます。美人マダムの話からパリの話題まで雑談に移ると、淀井先生は胸の前で組んでいた腕を上げて私を呼び、「この光景をどう思うかね。忙しい時間を割いてみんなやってきて、何一つ決まらないうちに女の話になってしまふんだよ。実にケシカラン」とお怒りになります。

そして壁に貼つてあるポスターを指さし、「デッサン力がないね。あの絵の女性は肩の後ろがないでしょう。彫刻家の素描は立体にしなければ作品ができないんだ」と、すぐ隣にその作者がいるにもかかわらず話されるので返事のしようもなく困ったこ

ともありました。端正なお顔の中に、意志の強い、鋭い目をお持ちで、説得力のある話をされる知的な理論家の淀井敏夫先生でした。

私が二科会を辞する時、「鷹山さんの作品が大好きだ。今の二科会は鷹山宇一がいるから世間から信用をされているのだ」と言つて戴き、涙が出る嬉しさでございました。

ご生涯の大半を「上野の森」で過ごされ、「お別れの会」が、本日(三月二十七日)ゆかりの地「精養軒」で執り行われていることを深く心に止めながら、淀井敏夫先生の凛とした後ろ姿を想い出しております。

謹んで、両先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(鷹山宇一記念美術館館長)

■吉井淳二氏略歴

1904年鹿児島県生まれ。1926年第13回二科展に初入選。1929年東京美術学校西洋学科卒業。同年フランスに留学。和田英作、有島生馬に師事。1934年第21回展で特待となり、1938年第25回展推奨、1940年会員に推挙される。1965年日本芸術院賞を受賞、1976年日本芸術院会員となる。1985年文化功労者として顕彰される。1989年文化勲章を受章。1978年～1997年社団法人二科会の理事長を務める。2004年11月23日逝去。

■淀井敏夫氏略歴

1911年兵庫県生まれ。1933年東京美術学校彫刻科卒業。1936年第23回二科展に初出品。1948年第33回展で特待となり、1951年会員推挙。1954年第39回展で会員努力賞。1965年東京芸術大学教授となり、1978年定年退官、名誉教授となる。同年社団法人二科会常務理事に就任。1972年第1回平櫛田中賞を受賞。1977年日本芸術院賞受賞、1982年日本芸術院会員となる。1994年文化功労者として顕彰される。1998年～2000年社団法人二科会の理事長を務める。2001年文化勲章を受章。2005年2月14日逝去。

1 七戸町・天間村合併記念特別企画展
福富太郎コレクション
近代美人画名作展

数多くの名作が残されている女性美は、時の芸術家たちの永遠のテーマとなっています。我が国においても平安期の絵巻物や、江戸期の浮世絵等、時代を超えて常に大きな対象となり、美人画の様式が築き上げられてきました。

本展は美術品蒐集家として著名な福富太郎氏のコレクションより、鏑木清方、北野恒富、竹久夢二、伊東深水、岡田三郎助、岸田劉生、佐伯祐三、小磯良平、東郷青児ら近代日本画、洋画の代表作家による美人画約60点を展覧します。伝統的な美人画の世界やモダン



▲鏑木清方「金魚」

美人画展
Information

■入館料(税込)■

一般850(650)円
学生400(320)円
小中学生200(160)円

※()内前売、団体、県民カッパ、受講者、JAF会員割引料金。

※前売券はサークルK・サンクス県内各店でお求めいただけます。

※友の会会員の皆様は特典通りご入館いただけます。

■図録販売・送付のお知らせ■

本展図録を下記の価格でお取り扱いしております。

一般 2,300円

会員 2,100円

(税込価格)
※送料150円
問合先=美術館
TEL0176-62-5858

■お呈茶■

4月10日(日)
「茶道裏千家七戸会」によるお呈茶のサービスがございます。

平成17年度
特別展
ご案内

2 手塚治虫の
ふしぎな虫眼鏡展

な女性たちの作品など、明治・大正・昭和の近代美人画の変遷をたどる中で、作家たちが女性美をどのように追求し表現してきたかを検証します。

「美人画は妙齢で優美華麗な女性像だけとは思っていません。時代時代の世相風俗が背景にあり、その女性の生活感情が伝ってくるドラマのある女性像が、私の美人画です。」と福富氏が語るように、作品は女性自身の生き方までも浮き彫りにしています。

「潤いと彩りあふれる田園文化都市」を目標に七戸町・天間林村が心を合わせて町づくりを始める新しい年に、時代を超えて生き続ける女性美の魅力をご堪能下さい。

2000年夏、不透明な時代だからこそ子どもたちの夢を育み、生命の尊さを伝えたいとの展覧会趣旨に多くの方々から圧倒的な支持と共感をいただいた「手塚治虫の世界展」世代を超えた夢ワールド」に続く第2弾です。

「自然が僕にマンガを描かせた」と手塚自身が語っているように、手塚作品の根底には「自然に根ざした生命の尊厳」という一貫したテーマがあります。

子どもたちが野山を駆け回り、自然や昆虫と体全体で対話し、そこでの体験から様々なことを学んで行く。そのような姿は何年

① 4月1日(金)~5月22日(日)
七戸町・天間林村合併記念特別企画展
福富太郎コレクション
近代美人画名作展

② 7月16日(土)~9月4日(日)
夏休み特別企画
手塚治虫の
ふしぎな虫眼鏡展
OSAMUSI WORLD EXHIBITION

③ 9月10日(土)~9月19日(月・祝)
第65回国際写真加展
第3回女性写真公募展

④ 11月20日(日)~1月29日(日)
第5回鷹山賞児童作品展
第5回地球環境世界児童
壁画コンテスト優秀作品展

※①~③会期中無休※
入館時間/10:00~17:30
(閉館は18:00)

か前にはどこでも見ることでできました。しかし最近、草木や森・林が減少し、自然と対話する機会がめっきり少なくなっています。

本展は、手塚治虫の眼を通して見た空想の世界「自然・昆虫の美・神秘・大切さ」を疑似体験しながら、新たな好奇心・冒険心・想像力をもって命の大切さを再確認していただくと共に、もう一度私たちの周りを見直す機会としていただこうというものです。

世代を時代を超えて今なお愛される手塚作品の原点を十分に堪能していただけることと思います。また、夏休みを利用したご家族のふれあいの場としてご活用いただけましたら幸いです。

12月

- ▼1日/鷹山館長生涯学習審議会(出席)
- ▼3日/鷹山館長十和田市立藤坂小学校において講演会
- ▼4日/財鷹山宇一記念美術館振興会平成16年第3回理事会
- ▼10日/鷹山宇一誕生記念日につき無料開館(遊蝶記の集いを開催。七戸町立城南小学校4年生、七戸町立七戸小学校5年生来館)
- ▼11日/七彩会油絵教室
- ▼14日/火曜サロン開催
- ▼17日/七戸町立七戸小学校6年生来館
- ▼18日/美術館アートクラブ「ワ華鏡」開催
- ▼19日/第5回鷹山賞児童作品展「地球環境世界児童画コンテスト」優秀作品展最終日、埼玉県立博物館特別展「羽子板の美とわざ」(国指定重要有形民俗文化財見町観音堂の羽子板14点を貸出美術館アートクラブ「ワ華鏡」を開催)
- ▼21日/鷹山館長天間林村成人学級において講演会・展示替えのため臨時休館(5/22日)
- ▼30日/年末年始休館(1月3日)

1月

- ▼4日/仕事始め
- ▼12日/曾根原七戸町城南児童館において移動ワークショップを開催

2月

- ▼1日/館内整備のため臨時休館(5/10日)
- ▼3日/節分の豆まきを開催
- ▼6日/鷹山館長南郷村において講演会
- ▼7日/七戸町立七戸小学校において移動美術館開催
- ▼9日/鷹山館長県立七戸高等学校において講演会、「子どもの文化」をテーマに出席
- ▼10日/鷹山館長七戸警察署において講演会
- ▼17日/埼玉県立博物館(貸出の見町観音堂羽子板返却)
- ▼18日/七彩会油絵教室開催
- ▼20日/美術館アートクラブ特別講座はらっぱ染色全3回(最終回開催)
- ▼28日/鷹山館長生涯学習審議会(出席)

13日/鷹山館長八戸聖ウルスラ学院高等学校、及び、南部町立南部中学校において講演会

▼14日/鷹山館長青森出張、美術館アートクラブ「ピンホールカメラ」を開催

▼15日/鷹山館長十和田市において「あしゅまる」講演会、七彩会油絵教室開催

▼19日/鷹山館長生涯学習審議会(出席)

▼22日/美術館アートクラブ「入テンシル」開催、鷹山館長東京出張(5/23日)

▼26日/天間林村立東小学校において移動美術館開催

▼27日/天間林村立榎林中学校において移動美術館開催

▼28日/天間林村立西小学校において移動美術館開催

▼29日/美術館アートクラブ特別講座「ふしぎな生き物全3回」最終回開催

美術館日誌

13日/鷹山館長八戸聖ウルスラ学院高等学校、及び、南部町立南部中学校において講演会

▼14日/鷹山館長青森出張、美術館アートクラブ「ピンホールカメラ」を開催

▼15日/鷹山館長十和田市において「あしゅまる」講演会、七彩会油絵教室開催

▼19日/鷹山館長生涯学習審議会(出席)

▼22日/美術館アートクラブ「入テンシル」開催、鷹山館長東京出張(5/23日)

▼26日/天間林村立東小学校において移動美術館開催

▼27日/天間林村立榎林中学校において移動美術館開催

▼28日/天間林村立西小学校において移動美術館開催

▼29日/美術館アートクラブ特別講座「ふしぎな生き物全3回」最終回開催

13日/鷹山館長八戸聖ウルスラ学院高等学校、及び、南部町立南部中学校において講演会

▼14日/鷹山館長青森出張、美術館アートクラブ「ピンホールカメラ」を開催

▼15日/鷹山館長十和田市において「あしゅまる」講演会、七彩会油絵教室開催

▼19日/鷹山館長生涯学習審議会(出席)

▼22日/美術館アートクラブ「入テンシル」開催、鷹山館長東京出張(5/23日)

▼26日/天間林村立東小学校において移動美術館開催

▼27日/天間林村立榎林中学校において移動美術館開催

▼28日/天間林村立西小学校において移動美術館開催

▼29日/美術館アートクラブ特別講座「ふしぎな生き物全3回」最終回開催

13日/鷹山館長八戸聖ウルスラ学院高等学校、及び、南部町立南部中学校において講演会

▼14日/鷹山館長青森出張、美術館アートクラブ「ピンホールカメラ」を開催

▼15日/鷹山館長十和田市において「あしゅまる」講演会、七彩会油絵教室開催

▼19日/鷹山館長生涯学習審議会(出席)

▼22日/美術館アートクラブ「入テンシル」開催、鷹山館長東京出張(5/23日)

▼26日/天間林村立東小学校において移動美術館開催

▼27日/天間林村立榎林中学校において移動美術館開催

▼28日/天間林村立西小学校において移動美術館開催

▼29日/美術館アートクラブ特別講座「ふしぎな生き物全3回」最終回開催

**③ 第65回国際写真サロン展
第3回女性写真公募展**

全日本写真連盟主催の「国際写真サロン」は、写真表現の可能性に挑戦し、プロ・アマ、国内外を問わず応募できる、国内では最も権威ある写真コンテストとして知られています。この第65回展では、海外40カ国・地域から3,573点、国内全都道府県から2,981点、総計6,554点もの作品が応募されました。本展はその入賞作品全130点を紹介するものです。また併催して、全日本写真連盟関東東本部管内の女性会員をはじめ、この地域の一般女性を対象に作品を公募する「第3回女性写真公募展」から、入賞作品50点を紹介いたします。



▲第4回鷹山賞児童作品展中学生の部(2004年)鷹山賞受賞作品「木の根」(水彩)千葉友瑛さん【三沢市立堀口中学校/2学年】

**④ 第5回鷹山賞児童作品展
画コンテスト優秀作品展**

アーティストたちの作品に接するとき、その原風景が彼らを育んできた風土の中に存在していることに気づかれます。青森県南部地方の児童生徒に作品を公募する「鷹山賞児童作品展」は、七戸町出身の洋画家・鷹山宇一の画業を顕彰すると共に、「子ども感性は風土の中で培われる」との精神の下、新しい時代を担う子どもたちへ未来のアーティストたちに、制作体験を通して自由な創造の喜びを味わい、豊かな感性を養ってもらおうと願い開催するもので、あわせて、その入賞・入選作品を展示します。また、併催として、財



▲第4回鷹山賞児童作品展小学生の部(2004年)鷹山賞受賞作品「大きなわとり」(水彩・クレヨン)カ石菜々子さん【三戸町立三戸小学校/2学年】

第5回鷹山賞児童作品展 作品募集!!

■募集資格 平成17年4月2日現在、青森県内、小学3年生以上、中学生以下

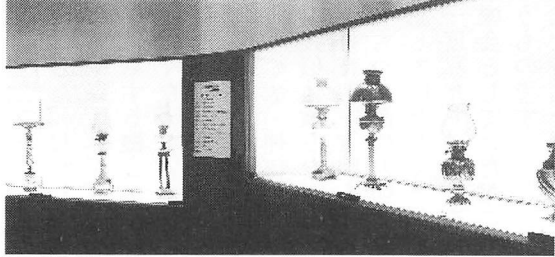
■応募期間(予定) 平成17年5月9日～30日

■テーマ=自由

※応募先、お問い合わせは鷹山宇一記念美術館まで。詳細は「募集案内」パンフレットをご参照ください(4月下旬発行予定)

団法人日本品質保証機構、国際認証機関ネットワークが主催する、世界各国の子どもたちに地球環境をテーマに作品を公募した絵画コンテストから、優秀作品を紹介します。本展が、未来のアーティストたちの感動体験となり、豊かな感性と未知の可能性を引き出し、やがて限りない創造性に結びついていくものと信じてやみません。

鷹山宇一ランプコレクション 展示替えしました



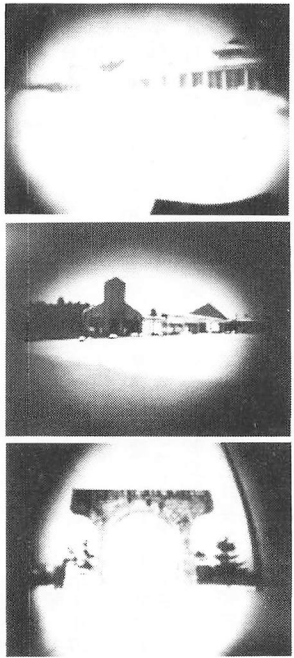
類まれな鷹山コレクションから、19世紀後半洋ランプの明治後期の和洋ランプを紹介しています。鷹山が愛したガラスの透明感を作品と共に是非お楽しみ下さい。

監視ボランティアスタッフ募集のご案内

特別展会期中の監視ボランティアにご協力いただけるスタッフを募集いたします。展示作品と鑑賞者の安全を守るお仕事です。午前・午後のみ、また丸一日と、ご協力いただける都合の良い日程でご参加いただければ幸いです。ご興味がおありの方は美術館までご一報下さい(TEL0176-62-5858)。皆様のご協力をお待ちしております。

美術館
アートクラブ
【担当/曾根原牧子】

この冬の活動から「ピンホールカメラ」を紹介します。講師は写真家の奥山洋一先生。写真の始まりを学習した後、カメラの仕組みについて体験しました。窓に開いた小さな穴から真っ暗な部屋に光が射し込むと、壁にくっきりと現れたのは、逆さまになった雪景色、通りを走る車も映像になって右から左へ、わっと子どもたちの歓声があがりました。きめ細かなご指導のもと、カメラ作りから撮影、現像、焼付け全て子どもたちの手で行いました。完成後、先生から一人ずつ作品の講評をいただいで、お互いの良さをじっくり味わいました。



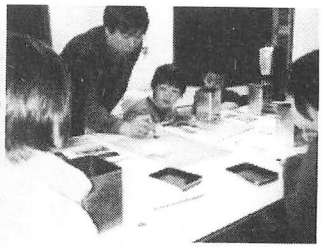
▲子どもたちの作品から。上||美術館(4年生)/中||美術館(5年生)/下||アーチと馬(4年生)



▲現像。「はっきり見えてきた!!」



▲撮影。雪でカメラをしっかり押さえて…。



▲大事なピンホールの開け方。布団針で直径0.3mm。

女の会研修旅行記

よみがえる四川文明と三星堆と金沙遺跡の秘宝展
生誕1200年記念 竹久夢二展・関野準一郎展

2004/11/23

三星堆遺跡との再会

十和田市 藤澤壮吉

20世紀最大の考古学上の発見といわれる文物を展示している中国四川省の三星堆博物館は1997年に年完成、中国の博物館の中で入場者数一位になり毎年増え続けているそうだ。

私が訪れたのは2000年5月である。一階展示室中央に置かれた青銅製のマスクが異様で度肝を抜かれた。目玉は顔から飛び出て、耳は羽のように張り出し、口は裂けるくらい大きく広がり、大きくすわった鼻、人とも動物ともつかない想像もつかない表情に圧倒され妖怪の世界に入り込んだという印象しか残らなかった。ほんの一部分より見られなかったが、何故か心ひかれるものがあり、もう一度ゆっくり見たいと思っていた。

期せずして今回「よみがえる四川文明、三星堆と金沙遺跡の秘宝展」であの化け物と青森で会えるとは夢にも思わなかった。
なにしろこの秘宝展では一級文物（国宝）を40点も展示しているそう
で、しかも2001年に発見された金沙遺跡は海外では初公開とのこと。
今から3800年前の「金の杖」から後漢時代の「銭のなる木」まで

の2000年もの時間の隔たりのある文化をあんなに近くで前後左右から入念に見ることができ、解説を読み、音声ガイドで聞き、知れば知るほど唯々驚くばかりであった。

化け物の正体は神を模した「縦目獣面具」というもので、古代蜀の初代の王が神格化されたのだらうということと、具体的なことはまだ謎であるということが分かった。

人面具や人頭像を除いて殆どの文物に鳥と魚と猛獣と太陽の文様が描かれており三星堆の人々を取り巻く自然との一体感、宇宙観は神々に捧げる崇高なもので、世界のどの文明とも違う独自の精神世界を持つていたことを物語るようで、何ともいえない安らぎと、豊かな気分になり大きな感動を覚えた。

それにしても地型的に隔絶された長江上流の四川盆地は歴代皇帝が蚊帳の外においていて左遷の地、流刑の地と定めていた程、辺鄙な地で文化、文明とは程遠いと思われていた筈なのに遙か数千年前に、どうしてあれだけの精密な細工、繊細な製造技術であれ程の文化を築き上げるこ
とができたのか、三内丸山の縄文時代後期と同時代なのか？・・・と次から次への想像と不思議の世界に入り込んでしまう。

尤も歴史的には四大発明①春秋戦国時代（BC770〜221）に羅針盤の原型。②前漢時代（BC206〜AD8）に製紙。③隋時代（581〜618）末に木版印刷。唐時代（618〜907）には火薬が発明されたという。

これらの発明も黄河文明、四川文明を生み出した中華民族の偉大な力とエネルギーの連鎖、蓄積があったからだと思えることができた。

現代中国は未曾有の経済発展（国内では多くの矛盾を抱えながらも）に伴う建設ラッシュで地下が掘り起こされ、どんな発掘、発見があるか楽しみと期待が増すばかりである。

但し市場経済が優先され、強力な文化保護政策がとられなければ期待は裏切られてしまう。昨秋山西省の黄土地帯に石油コンビナートを建設するため明時代の、のろし台が破壊されてしまったと報じられたが嘆かわしいかぎりである。

竹久夢二展に思う

七戸町 高田 美津子

鷹山宇一記念美術館友の会の役員である盛田駿造氏より、竹久夢二展の感想を書く依頼を受けた時、はたと当惑した。私は竹久夢二に関して
は幼い頃、母の雑誌で見た細身のなよなよした美人画と「宵待草」の唄ぐらいしか知らず、男性でありながらその女々しさに、余り好感を持っていた
が、今回の研修旅行に参加させ

て頂き夢二という未知の人間に対する理解が深まり夢二について、もっと知りたい意欲にかられた。
初めて訪れる青森市民美術館全体に、甘く切ないBGMが流れ、4階の第一展示室に入ると、窓辺に寄りかかる夢二の憂愁に満ちた表情の大パネルがあった。

「こんな姿をみれば、世の女性はほっておかないだろう」と戸館氏が呟いておられたが正に言い得ている
と思った。

年譜を見ると、明治17年に生まれ、昭和9年に49歳で亡くなるまでの生涯で、目を引かれたのは、女性遍歴の華々しさだった。

夢二はその時々々の女性への愛や感情の機微を絵に描くことで心を鎮め、あの様な膨大な作品の数になったのではないか。

雑誌のコマ絵や挿絵にはじまり、日本画、洋画、版画、童画、セノオ楽譜絵、ハガキ絵果ては詩や小説を書くなど、作品の種類が多く、そのモデルになったのは、夢二の出会った女性達で夫人岸たまき、彦乃（しのお）、お葉、順子だったのである。

わずか49年生きて、大正の歌麿とまで言われ一世を風靡した夢二を、蔭で支えた女性達の名を、年譜に加えたのは、嬉しいことである。

11月20日より開催された「夢二生誕百二十年記念展は、12月5日で終わるが、この機会に私なりの夢二探しができたことは、今年の大きな収穫であった。
夢二訪ふ舗道を染めて落葉かな

私のおすすめ 美術館

女神のニューヨーク

七戸町 佐々木 信幸

思いがけず、妻と二人で参加することになったアメリカ旅行。私にとっては初の海外デビュー。仕事上での団体旅行です。出発日を数日後に控えた某日、杉屋敷「奥山」の奥様、雅子氏が現れました。「ニューヨークに行くなら絶対メットに行かなくちゃ！」腕の中には、厚さ10cmもあるうメトロポリタン美術館(MET)の資料。この強力なブッシュが、METへのスタートでした。

11月6日、ニューヨーク午後3時過ぎ、突然あいたフリータイム。自由の女神様は微笑んでくれました。私と妻はMETとホテルの住所を書いたカードを持ちタクシーに乗りました。(英語ができないのです。)セントラルパークを抜けたら写真どおりの巨大なMETが目の前にありました。入口の石段に立っている事に私達は感動し、夢のようでした。中に入ると、大勢の人がいるのですが、ゆったりとした「時の流れ」があり日本とは違う感じがします。あまりの広さに、知っているヨーロッパ絵画だけを選んで見ました。ルノワール・ドガ・セザンヌ etc.



▲MET美術館前にて。中央、仁王立ちの佐々木さん

一度はどこかで見た事のある絵が「ずかに」目の前に在ることが不思議で、綺麗なものでした。
ドガの彫像で「14歳の小さな踊り子」は、可愛らしく小さくて、見ていると孫の真理を思い出しました。迷子になりながらも、あちらこちらを見、最後に地下に在るセルフサービスの食堂にて夕食です。セルフと言っても何と広い、何とメニューの多い、何と安い、さすがにアメリカでした。英語の話せない私達でも充分楽しめました。
METの売店で買い物も楽しみ外に出ると、あたりはすっかり暗くなりニューヨークの夜でした。
『ホテルの住所のカード・・・どこだっけ・・・』『えっ・・・』

受賞おめでとうございます。

七戸町出身で美術館・友の会ゆかりの次の方々が平成16年度七戸町文化賞を受賞しました。
益々の活躍をご祈念申し上げます。
◇高田ヨネ氏(雅号:高田雨草) 水墨画 元友の会理事
◇鳥谷部良子氏(フルート奏者) 平成6年開館式でフルート演奏
◇奈里多実星氏(人形作家) 平成14年七戸町制施行100周年記念「郷土の作家たち展」で展示

会員登録の更新と新規会員

入会お誘いのお願い

友の会10周年記念事業は各位のご協力により完了しました。本年も鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様方に芸術・文化に一層親しんでいただけるような企画により、地域文化の振興に寄与していく所存でございます。皆様には引き続き会員登録をお願い申し上げます。なお、更新手続きは、美術館窓口と郵便振替により随時行っております。

▽一般会員

会費(個人) 年度会費 3千円

▽特別会員

会費(個人・法人)年度会費 1万円

▽賛助会員

会費(個人・法人)年度会費 2万円

※詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

友の会第3回海外研修旅行

好評の友の会海外研修旅行。第3回目の企画「南フランスと印象派の旅」概要をお知らせします。次号会報でいよいよ募集開始いたします。

- ◆研修地 南仏、パリ
- ◆時期 2007年6月上旬 8日間
- ◆経費 350,000円
- ◆申込金 50,000円(内金)
- ◆その他 全行程添乗員同行

編集後記

★絵画購入資金の寄贈。イタリア・ルネサンス美術紀行の実施。10周年記念号(カラー)発行。台本刊行など予定された記念事業が完了し、ほっと一安心。会員の皆様のご協力のおかげです。

★美術館では、七戸町・大間村台併記念特別企画展「近代美人画名作展」が始まります。春の楽しみです。お見逃しなく。

★本号から台報「デザインを変えました。表紙は、鷹山先生の油絵、版画、デッサン、挿絵、蒐集マップなどを順次紹介していく予定。また、文字を10ポイント、4段組にしました。少しでも見やすくなればと思っております。

★発行が大幅に遅れました事、お詫び申し上げます。(E.T.)